

令和5年度第2回江東区みどりの基本計画推進会議 議事メモ

| | |
|-----|---|
| 日 時 | 令和5年12月20日(水) 10:00~12:00 |
| 場 所 | 江東区文化センター4階 第2・3会議室 |
| 出席者 | <p>〈委員〉</p> <p>島田 正文 会長(一般社団法人日本公園緑地協会 研究顧問)</p> <p>柳井 重人 副会長(千葉大学 大学院園芸学研究院 教授)</p> <p>櫻井 節子 (北砂4・7丁目町会)</p> <p>矢部 正治 (公募区民)</p> <p>葭葉 抄子 (公募区民)</p> <p>平野 智也 (NECソリューションイノベータ株式会社)</p> <p>渡部 陽介 (清水建設株式会社 技術研究所)</p> <p>美濃又 哲男 (みどりネット Koto 代表)</p> <p>須永 淑子 (NPO法人江東区の水辺に親しむ会 理事長)</p> <p>中村 和弘 (豊洲小学校校長)</p> <p>〈委員(区職員)〉</p> <p>石井 康弘 (土木部長)</p> <p>大塚 尚史 (企画課長)(代理:企画担当 福田係長)</p> <p>藤原 慶 (営繕課長)</p> <p>伊藤 裕之 (地域振興課長)</p> <p>西谷 淳 (温暖化対策課長)</p> <p>谷川 寿朗 (都市計画課長)</p> <p>大野 俊明 (管理課長)</p> <p>召田 和也 (道路課長)</p> <p>清田 光晴 (河川公園課長)</p> <p>八巻 亮 (施設保全課長)</p> <p>西尾 基宏 (学校施設課長)</p> <p>飯塚 雅之 (指導室長)</p> <p>〈事務局〉</p> <p>管理課:吉木、中村、松井</p> <p>〈傍聴人〉</p> <p>1名</p> |
| 欠席者 | 鳥井 将弘 (保育課長) |

| | |
|-------------|--|
| <p>次第</p> | <p>1 江東区みどりの基本計画推進会議委員の変更について 2 議題 (1) みどりの基本計画中間時点の取組み状況 (2) 江東区みどりの基本計画推進会議部会の活動報告 (3) 江東区緑化指導のあり方検討委員会の活動報告 (4) その他</p> |
| <p>配布資料</p> | <p>次第 江東区みどりの基本計画推進会議 委員名簿 資料1：みどりの基本計画中間時点の取組み状況 資料2：江東区みどりの基本計画推進会議部会の活動報告 資料3：江東区緑化指導のあり方検討委員会の活動報告 意見等回答様式</p> |

開会

注意事項及び連絡事項

委員

(連絡事項)

会議の傍聴について、本日1名の方が傍聴を希望しており、ご了承いただきたい。

会長

本日は4つの議題を予定している。議題ごとに事務局より説明を願いたい。

議題(1) 各事業進捗について

会長

みどりの基本計画は令和2年度から令和11年度までの10年間を計画期間としており、令和6年度が中間年次にあたる。基本計画は推進会議の意見聴取などを行いながら、長期計画の見直し時期に合わせて計画の見直しを行うこととしている。今回の会議では見直しを行うにあたり、委員の皆様から、現時点でのご意見や気がついた点、あるいはご質問があると思うので頂戴したい。

それでは議題(1)みどりの基本計画中間時点の取組み状況及び今後の方向性について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局

(資料1説明)

会長

それでは各委員から一人ずつ意見をいただきたい。

委員

これだけのみどり関連の事業が進んでいることを知らない区民は多いと思う。C判定が複数あるが、この状況が全体の評価として数が多い状況なのかわからないが、事業を進めていることを、もっとアピールしてもいいと思う。

委員

色々な取り組みが進んでおり、素晴らしいと感じている。一方で、前回の推進会議でもお伝えしたが、みどりのまちなみづくり事業の民間緑化顕彰制度は、進めようと思えば進められると考えている。まだ事業化されてないというのは、残念だなと思うと同時に、最近では様々な価値観があるので、評価の基準を作るとするのが非常に難しいと感じている。

また、例えば、現在進めている仙台堀川公園の整備工事について、詳細な情報が区のホームページに掲載されていない。神戸市には、都市公園等コンクール国土交通大臣賞を受賞した東遊園地があり、駅前から看板に将来のイメージ図や説明を掲載していた。面白いのは吹き出しで、整備後の姿について面白おかしく書いており、すごくわかりやすかった。先ほども、どういった事業がどれだけ進んでいるかわからない、という意見があったと思うが、伝える努力は必要なのかなと思った。

委員

小学校の改築事業について、現在明治小学校が改修中である。また、ここ最近では深川第二中学校や数矢小学校で改修・改築工事をしてきた。壁面緑化をしており、緑が増えた印象があるが、この屋上はどうなっているのか、ということは個人的に興味がある。

また、こういった改修・改築工事のタイミングはチャンスだと思っている。不登校の子供も増えている現状があり、例えば屋上がつろげるような緑化スペースで、教室でも家でもない、癒されるような場所だとすごくいいと考えている。

こういった改修や改築のタイミングで、ぜひ地域や学校の人たちと意見交換をする場を設けてもらえたら嬉しいと思う。

委員

2点お話ししたい。1点目は、後ほど議題2でも報告するが、部会の部会長として、約2年間活動してきた。運営は区が事務局で、企業の方や区内のみどりの活動団体や区民、立場の違う人たちが、同じテーブルで会議やまち歩き、イベントに参加している。立場が違う人が一緒になることによって、色々面白いことを行うことができおり、そのことは非常に良いことだと思っている。

2点目は、コミュニティガーデン活動について、12月現在で76団体と、ここに来て、急激に増加している。コミュニティガーデンの活動の目的は、住民などが集う地域の庭としており、地域の交流が大切だと考えている。日曜日にコミュニティガーデンの交流会を開催し、

深川地域の保育園の園長に話を伺った。深川公園の中に、深川なごみの庭というコミュニティガーデンがあり、そこに保育園の園児たちを連れてきて交流している。

交流会で、園長とボランティアの方々との意見交換の中で話題になったのが、コミュニティガーデン活動と保育園などとの連携がうまく取れていないとの意見が出ていた。コミュニティガーデンの情報が保育園側に伝わっていないという話があった。コミュニティガーデン活動がより一層発展していくためには、そういう保育園などとの繋がりが大切だと感じている。

また、ガーデンの活動自体は公園などで行っているが、活動後に少しお茶する場とか、その後に、みんなが集うような場みたいなことがきつと大切だと考えている。そういったことについては土木部の管理課が1番得意なことではないはずなので、地域振興だとか、そういうセクションの方が得意なのではないかと思っている。他のセクションとの連携を、これから模索していく必要があると感じている。

委員

緑を増やした後のソフトをもう少し充実させるべきじゃないかなと思っている。環境に配慮した建物ということで、屋上緑化が増えているが、維持管理や楽しみ方など、そういうソフトを入れていけたら、と思っている。先日のイベントで豊洲市場の屋上に行った。とても気持ちがいい緑があり、普段利用されてなくて人がいないが、とても綺麗な場所である。豊洲市場ではロボット掃除機のような芝刈り機で刈っているが、新宿では屋上で、野菜を育てている小学校があり、販売して地域に貢献していると聞いている。

また、前回の推進会議で、マンションの木がひどい切れ方をしているという意見があった。江東区ではみどりに関するプロがたくさんいるので、そういう方に協力いただいて、セミナーを開いたらどうかと思う。今週あるマンションに呼ばれて、剪定の講習を行った。植物の成長点などの話から始めて、そのあと住民の皆さんに、周りの木を切ってもらった。自分で切った感想を聞いてみると、自分で触って、こういうことができるということに感動していた。このようなソフトの仕組みがほしい。

委員

企業の観点では、江東区は公園や運河などがあり、ポテンシャルが高いと感じている。それらをもっと生かしていくことで、より良いまちづくり、C I Gに繋がったと思っている。

一方で、企業の緑地やその取り組みについて、地域の方々に知られていないという課題があると感じている。公開イベントを実施して意見を聞いた際には、毎日付近を歩いている、企業の緑地や取り組みの内容を知らない方も多い。

江東区には、地域の資源や取り組みというのは、たくさんあるので、それをどう伝えていくかが重要だと感じており、基本計画に掲載されている顕彰制度や魅力発信を実施するためには、ポータルサイトのようなウェブページ以外も含めて検討していく必要があると思

う。企業としては、NPO や行政の取り組みの情報と一緒に、企業の取り組みも合わせて発信してもらえれば心強いと思っている。

もう 1 つは、昨今では生物多様性やネイチャーポジティブが国際目標であり、企業の関心が高まっている。生物多様性についての取り組みについて情報開示をしなくてはならない流れも生まれてきており、生物多様性に関するビジョンを提示するが、具体的にどのようにして実践していくかを悩んでいる企業は多い。

そういった際に、地域で活動されている NPO や行政と連携して、そういうネイチャーポジティブに繋がる取り組みを、できることが大事なかと考えており、そういった企業と、団体間、企業と行政のマッチングができる仕組みがあるといいと思っている。

委員

「CIG ビジョン（基本方針）目標・達成状況」について、緑視率の目標値の 22% に向けて現状のペースだと一見達成が難しいように見受けられるが、参考までに現時点での感触や今後の方向性を教えていただきたい。

みどりの基本計画中間時点での取り組み状況について、1-2-1「みどりのまちなみづくり事業」の民間緑化顕彰制度、1-3-1「CIG 民間緑化推進事業」の江東区みどり 100 景、4-2-1「CIG 民間緑化推進事業」のみどりの顕彰制度については、相互連携できると良いと感じた。また、後の議題でもテーマとして取り上げられている、「みどりの魅力発券にむけたマップやホームページ作り」との相性が良いのではないか感じた。

まずはみどりに関する取り組みを知ってもらうことに力を入れることで、それに対して共感や意見をもらうなど、自分事にしてもらうことで、目標・達成状況のうち、(2)区民評価に関する目標についてもそれぞれ良い波及効果が期待できるように感じた。会社としても行政による諸表彰制度やツールを活用できることで、地域の方への一つのアピールや接点になるとともに、活動が認められることで緑に関する取り組みの継続や強化、活性化のきっかけにもなりそうだと考えている。

その他、今後の会社としての取り組み推進の参考までに、改めてみどりの取り組み推進、計画の達成に向けて、当社をはじめ、区内に事業所をおく企業団体に期待したいこと、お力になれそうなことがあればお願いしたい。

委員

学校関係で言うと、ポケットエコスペースの評価については、大規模改修がなかったため C 評価になっているが、例えば本校では昨年度から新しくビオトープを作っている。

資料の施策に書いてある通り、緑のネットワークが大事だと思っている。学校のみどりというのは、ただ緑色でいいわけではなくて、学習環境としての緑が必要だと考えている。そういう点では、みどりの量が少なくても、例えばビオトープで、子供たちは休み時間に水辺を除いてメダカが増えた、あるいは少なくなったなど、食物連鎖のことなどについて身を

もって学んでいる。少ないスペースの中でもカエルがいて、このカエルはここに冬眠しているとか、教員よりも子供たちの方がよく知っている。

それから、昔から学校では実のなる木を植栽している。理由は理科にももちろん大事だが、国語でも、俳句を読むうえで季語を入れるために、色づいてきた、実がついている、葉が落ちたなどがある環境が、学習環境として大事だと思っている。そういったことも含めて、みどりを増やす中で対応していただきたい。

例えば小学校が改築などを行った場合は、維持管理の面で植栽の内容を決めるのではなく、管理は大変になるかもしれないが、学習環境としての必要なみどりについて学校と意見交換できればと考えている。

伐採・新植するのではなく、移植するなど、持続可能な形でみどりを増やす考えをしてもらえればと思っている。

副会長

評価の凡例にある評価 A の実施と評価 B の実施中は何が違うのか。混乱するため整理をお願いしたい。

評価については、基本計画の中間時点の評価としては、実施した、していないではなく、目的に対して貢献しているかという評価になるはずである。

例えば、事業は実施できたが、評価としては、もう一工夫普通必要であるとか、これまで進まなかった事業が進んだことに対しては良い評価ができるなどである。

評価というのは、何を目的に何に対して取り組んで効果的だったか、そうでなかったかを検証し、反省や良い評価をするものだと考えている。例えば、みどりのまちなみづくり事業が A 評価だが、緑化指導を実施すれば、ネットワークは作れるが、生物多様性に配慮した緑化指導が必要など、そういった評価もある。資料の一番左端は、事業を何のために実施するのが記載されている。事業をやって、貢献できたかという評価を、令和 6 年の中間年次の時には実施してもらいたい。

基本計画が策定された令和元年度以降は、先ほど渡部委員から話があった生物多様性や気候変動、そしてコロナ禍を経てウェルビーイングという言葉がとても重要視されるようになった。これは心と体の健康と社会的な繋がりがあある状態を指している。また、デジタル技術をどのようにして活用していくか、基本計画策定時にも話題にはなっていたが、現在は主流化しつつある。こういった観点の基本計画の見直しには必要になってくると思う。

それから、部会の活動が素晴らしいと感じている。様々な分野の方々が精力的に参加されていて部会を育ててきた。今後この部会をどう位置づけるかが重要だと考えている。基本計画を策定した際に、今後 PDCA サイクルを回していくうえで気になっていたのは、計画はできて、チェックは推進会議や庁内会議で行うが、どこが推進力を担うのかと思っていた。部会という行政で実施する通常の事業を超えて、民間と繋がる重要な推進力になっていると思う。これをそのまま推進会議の中の部会としてやるのもいいが、もう少し実施しやすい

ようにサポートの仕方が重要だと思う。

最後に他分野との連携が必要だと思っている。保育園が出たが、江東区の場合、企業との関係が重要なことであり、前回お話しした国の評価制度で、新規に緑を作る際に、その緑化について高い評価を受けたところには投資が集まる動きがある。評価については、地域の価値を向上させる、生物多様性や気候変動対策、ウェルビーイングなどがあるが、最終的にそういった地域の価値の向上が1つの重要な評価の項目になっている。

そういった意味で、様々な主体が繋がるということが重要になってくる。先ほど美濃又委員が話していたように、繋がるということが大事だと思っているので、そういった目線で見直しができればいいと考えている。

最後に一つだけ。都市公園制度が150年経っており、太政官布達の公園が江東区にもある。歴史的な価値を持っている公園を単に更新してしまうのではなくて、重要なものに関しては継承していく必要がある。

例えば、震災復興公園のうち52の小公園があるが、今年で関東大震から100年経って、その後に、小公園が作られて、かなり時間が経過している。こういった公園は災害を伝える重要な文化だと思うので、そういうところに配慮しなければいけない。

会長

少し前の委員からの質問を飛ばしていた。緑視率について、令和11年度の目標値22パーセントを達成できるかどうか。事務局に回答をお願いしたい。

事務局

令和4年度の調査では緑視率が17%と緑被率の21%に対して低い結果が出ている。緑視率についての調査委託の考察では、建築行為による接道部の緑化と壁面緑化の増加がある一方で、開発行為により、元々あった樹木が減少した傾向もあるため、その増減によりこの結果となっているとのことである。基本計画策定時から5年間経って1%上昇していないため、目標達成については課題を洗い出し検討をしなければならないと考えている。

会長

グリーンインフラという言葉が昨今使われている。元をたどっていくと、カーボンニュートラルなどに繋がっている。そういう発想で、もう一度、今までやってきたことをもう1回整理して、道路などのインフラに匹敵するように緑の機能を捉えていく必要がある。

公園の改修の話題が出たが、一人あたりの公園面積が江東区は23区で3番目であり、1人当たり約8㎡あることになっている。これを、さらに有効に活かしていくためには、パークマネジメントなど、そういったプランを立てる必要があると考えている。副会長が東京都の計画に携わっており、これを良い機会と捉えれば大きな力になってくると思う。それから、国家戦略として、カーボンニュートラルを2050年までに達成する目標がある。それと

同時に、生物多様性や自然と共生する社会形成というようなことで、2030年までの国家戦略が出ている。30by30やネイチャーポジティブ、自然共生サイトなど、そういう新しい社会の動向があるため、基本計画の見直し時に上手く入れ込む必要がある。先日、国連の事務総長が地球温暖化どころではなくて、地球沸騰化の時代に入っていると発言していた。リオで開催された地球サミットの標語では、「シンク・グローバリー、アクト・ローカリー」という言葉がある。江東区だけやっても無理と思わずに、やはりシンク・グローバリー、アクト・ローカリーという考えでどこの国も、あるいは一個人も取り組まないと、子孫にいい環境は残せない。昨今の自然現象を考えるとそんな思いもする。

来年から森林環境税というのを、1000円ずつ住民税で徴収される。これは、これまでの復興税で支払っていたものに代わるものであり、負担が増えることではない。

森林環境譲与税ということで、もうすでに各自治体に下りてきている。森林面積とか、様々な係数があり、50%が森林面積、20%が林業就業者数、そして住民人口が30%の係数である。なお、公表義務があり、江東には年間5000万円ぐらい配当されるとのことである。現在見直しをするそうであり、区によっては当面様子見で基金にするものもある。林野庁は、その配分方法を検討しているとのことである。

江東区では学校整備の際の、資金に使っているという話を聞いている。この税の用途はボランティア育成とか、子供たちの森林教育、あるいは公園の木製遊具、案内板など様々な使い方ができる。江東区はCIGを進めているため、江東区ならではの使い方があるはずなので、検討材料にしてもらいたい。

また、区役所東側の西友の近くに景観審議会で議論した物件がある。道路沿いにカツラの樹木が植栽されていたが、歩道の根上がりの問題で伐採されてしまった。緑化指導をする際には樹木の特性とか、あるいはその植栽地の幅とか、もう少し丁寧に指導してもいいのではないかと考えている。せっかく植えて、5、6mになったのに切られてしまった。

先ほどの委員の意見もあり、前回の私の意見でもあるが、樹木を簡単に切ってしまう傾向があるので、小学校も随分改築で切るっている。予算がないというのはよくわかっているが、民間事業者は頑張っているのに対して、公共は何故簡単に切ってしまうのかが疑問に思う。公共は民間の見本になってほしい。

また、江東区は23区だけではなく、日本全体を考えても、これだけ水辺がある自治体はないため、もっと水を生かした計画を作ったほうがいいのではないかと。

副会長からの事業評価の話があったが、企業のKPIやKGIのように事業ごとに達成状況を、割合などで数値化できないか。行政で実行したと言っても区民がわかるようにしなければ伝わらない。できる事業とできない事業があるので、できる事業に関しては数値化していくのも1つの方法だと思う。既成概念をまずはなくして考えていくべきだと思う。

これまでの話から河川公園課長何か話はあるか。

委員

公園の防災機能について、令和4年度は実施していないため評価がCだった。副会長の話にあったが、江東区は関東大震災から100年経ち、区には7つの震災復興公園がある。現在、令和4年度・5年度の地域防災計画の見直しの中で、震災復興公園という当時の想いを振り返り、隣接している小学校との連携や防災機能をどのようにしていくか検討している。

そういった中で、江東区の特徴である歴史や防災、また昨今のパークマネジメントの面でも公園改修時期に合わせて検討材料にしていければと考えている。

会長

都市計画課長にここまでの内容について意見をいただきたい。

委員

都市計画課では景観形成ということで、景観専門委員会を運営しており、会長に出席してもらっている。その中で、可能な限り緑化をしてもらえるように事業者には訴えている。先ほど話が出たとおり、事業者から伐採せざるを得ない場面で都市計画課に届け出がでることがあり、歯がゆい部分があるが、粘り強くやっていきたいと思う。

会長

土木部長にここまでの内容について意見をいただきたい。

委員

基本計画を改定した平成30年から令和元年について、その時は管理課長だった。会長や副会長から、意見をいただき計画をまとめた。

それから異動したため、どのように評価をしていたかはわからないが、実施したがA、検討中がB、実施していないがCという区分にしていたようである。

今回の資料を作成した際に、検討中ということでBとしていたものがあつたが、検討していたが実施できていないのであれば、評価できないためCに修正した経緯がある。このことが残ってしまっていた。

評価については、数値化できるものかどうか、どういった形で評価するのかというのは、今後の検討課題だと思っている。また、事業名の頭に星マークがあつて、評価がCのものは、計画策定時に予算化しようと思つて要求したが、予算化できていないものである。

今後同じ形で要求しても、おそらく予算化は難しいと考えており、このことについて、今後どういった方向性で、予算を要求していくべきか、皆さんから意見をいただければと考えている。会議後に意見を記載する用紙もあるので、その中で、顕彰制度やみどり100景など、予算要求したが予算化できなかったものについてご意見をいただきたい。

会長

それでは議題2について部会長に説明をお願いしたい。

委員

(資料2について説明)

会長

このことについて意見はあるか。

副会長

毎回驚かされており、令和3年からやってきたことが、7つの提案にまとまっており、その中の3つというのは、活動団体や区民の方のリアルな声として反映されている。この成果をどう活かすのかというのが大事なことで、この資料のように区がバックアップして進めていることがとてもいいことだと思っている。

行政が中心になって事業を進めるというだけではなくて、こういったやり方が様々な広がりを生むと思う。おそらく行政だけではイベントを通じた人脈みたいなものはすぐにはできるものではないはずである。

このことについては、来年のみどりの基本計画の見直しで組み込むといいと思う。東陽地区のモデル提案を他の地域で展開できるように提案してもらっているが、他の地域へ十分適用できるものだと思うし、例えば、花による街の景観づくりというのは非常に身近であり、コミュニティガーデンが盛り上がっていること、落ち葉のリサイクルなど非常に区民目線があることから、これができればいいと思う。一番は基本計画の施策とリンクできることだと考えている。

7つ目の提案は、100景と繋がっていきそうな気がしている。おそらくこれは、まち歩きをしていて、魅力を発見していったと思うが、みどり100景にリンクしていくのではないか。また、実際にこれから、花壇を作るとのことだが、会長の話にもあったが、実際やってみて、それを評価するという、社会実験的な発想がこれから必要である。これまでは一生懸命計画を立てて、進めてきて、それも大事なことだが、これからは、まずやってみて課題を出すということが主流になってきている。国の方針などにも、社会実験のようなワードが入ってきている。

そういう観点でも、区役所の花壇という今までとは違う新しい試みを1つ入れて、それも、区がサポートできるような取り組みができればいいと感じた。

会長

それでは議題3について事務局に説明をお願いしたい。

事務局

(資料3について説明)

会長

このことについて意見はあるか。

委員

説明の中で、維持管理計画書の提出の話があったが、すべての植栽について維持管理計画書を作成して提出する必要があるのか。

事務局

10月以前にもすべての植栽について維持管理計画書は提出してもらっている。樹種ごとに水やり、施肥、除草・選定などの頻度を記載してもらっている。10月からは、このことに加え、ウミネコ対策の記載をすることとしている。

会長

私から1点。検討課題の3つ目の建替時の既存樹木の取扱いについて、検討中ということだが、検討している間に樹木は切られていってしまう。事務局が忙しいのはわかっているが、例えば部会にいる造園業者や須永委員のような専門家に知恵を出してもらい、管理の指導について検討してもらいたい。

会長

最後にその他で、全体を通して意見はあるか。

委員

部会について、委員がお話したとおり、企業やNPO、行政、市民団体、区民の方々が集まって、話し合うことで、お互いが何をやっているのかがわかり、その上で連携できていると感じている。

企業も地域連携を考えているが、どう繋がっていけばいいのか悩んでいるところがあり、こういった部会の場というのがとても大事だと考えている。

一方で、部会は有志の集まりということもあり、イベントなど相乗りで実施してはいるが、企画や運営については、なんとか、ギリギリのラインで実施しているという風にも感じている。このことについて、プラットフォームの強化や支援の仕組みを作る必要性を感じている。

会長

最初に指名した委員からは、区民にもっとアピールした方がいい旨の意見をいただいた。

今の委員の意見についても、貴重な意見として実現化をしてもらいたい。
また、大田区は自然共生サイトとして企業が登録している。清水建設は登録しているか。

委員

越中島にある再生の杜で認定されている。

会長

清水建設は海外の企業などとの交流もあることから、海外からの評価は高いのではない
か。

委員

直接の経済的なインセンティブは、現時点でそこまであるわけではないが、今は企業として
生物多様性に貢献しているかどうかを情報開示していかなければならない。そういった
際に、企業が国際目標に貢献できているという面ではPRできていると考えている。第三者
的な視点と公的な視点で評価をいただくというのは企業として取り組みを進めやすくなる
と思う。

会長

江東区は大手の企業の本社が多いため、そういった企業と連携できれば頼もしい力にな
るのではないか。事務局だけでなく、推進会議の委員にもぜひお力添えをお願いしたい。

最後に事務局から事務連絡をお願いしたい。

事務局

(事務連絡)

会長

以上をもって、令和5年度第2回江東区みどりの基本計画推進会議を終了する。

以上